

クビアカツヤカミキリは早期発見・早期防除が重要です！

1 発生状況

クビアカツヤカミキリ(写真1)は、幼虫がもも、うめ、さくら等の樹皮下を食い荒らして衰弱・枯死させる害虫です。県内では平成29(2017)年以降、県南西部を中心に被害が報告されてきましたが、昨年は県北部の大田原市でも被害が確認されました。

幼虫に加害された木では、フラス(フンと木くずの混ざった物:写真2)の排出がみられます。フラスの有無をこまめに確認し、早期発見・早期防除に努めましょう。産卵数が非常に多いので、薬剤散布、被害樹伐採、飛散防止ネットの設置等、総合的な対策の実施によって生息密度の低下を図り、被害の発生と拡大を防ぎましょう。

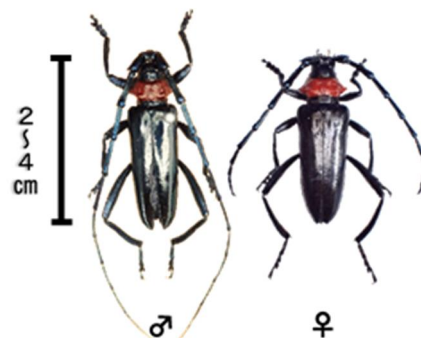


写真1 クビアカツヤカミキリ成虫



写真2 幼虫と株元のフラス

2 防除対策のポイント

(1) 幼虫の防除(4月~10月)

- ・針金や千枚通し等で坑道内の幼虫を刺殺する。
- ・フラス排出孔内のフラスを除去し、幼虫を対象としたスプレー剤を葉液が滴るまで噴射する(表1)。

(2) 成虫の防除(6~8月)

- ・成虫を対象とした薬剤を複数回散布する(表2)。もも・すもも等では成虫発生時期と収穫時期が重なるため、薬剤の収穫前日数や使用回数に注意する。

※県南西部の成虫初発日は、5月30日~6月2日頃の見込み(農研機構メッシュ農業気象データの平均気温(5月21日時点)により算出。)

- ・管理作業時等、成虫を発見したら速やかに捕殺する。
- ・成虫の飛散防止のため、被害部を目合4mm以下の丈夫なネットで被覆し、逃亡防止のため端や地際を固定する。こまめに見回り、ネット内へ脱出してくる成虫を捕殺する。
- ・傷果や腐敗果を園内に放置すると成虫が誘引されるので、園外に持ち出して処分する。

(3) 卵の確認と防除(6~8月)

- ・卵はブラックライトを照射すると蛍光を発する(写真3)。定期的に主幹・主枝部への産卵を確認し、ナイフや剪定ばさみ、金属ブラシ等の硬いもので除去する。
- ・卵が多く確認された樹木では、ふ化した幼虫による加害が懸念されるため、こまめにフラスの有無を確認し、フラスを認めたら(1)により速やかに幼虫を防除する。

写真3 クビアカツヤカミキリ卵の蛍光
(左:自然光、右:ブラックライト照射時)

(4) 被害木伐採後の処置について

- ・伐採木は発生源となるため放置せず、速やかに処分する。
- ・伐採は成虫の発生がない9月~翌年4月の期間中に行い、伐採後の被害樹は粉碎、薬剤くん蒸、焼却場に持ち込み焼却処分する等の手段で適切に処分する。

(注) 本種は特定外来生物に指定されており、生きた虫の飼育、運搬、放虫等が法律で禁止されています。伐採木の運搬や保管には、逸出防止措置が必要です。詳細については、各農業振興事務所にお問合せください。

3 果樹のクビアカツヤカミキリ防除に使用できる主な薬剤 (令和6(2024)年5月20日現在)

表1 幼虫の食入孔に使用できる主な薬剤

作物名	薬剤の名称	使用時期	使用方法	使用回数	IRAC コード
もも すもも うめ	ベニカカミキリムシ エアゾール*	収穫前日まで	樹幹・樹枝の食入孔に ノズルを差し込み噴射	5回以内	3(A)
	ロビンフッド*	収穫前日まで	樹幹・樹枝の食入孔に ノズルを差し込み噴射	5回以内	

*:カミキリムシ類に登録のある薬剤

表2 成虫発生時期に使用できる主な薬剤

作物 名	薬剤の名称	使用時期	希釈倍数 /使用量	使用方法	使用回数	IRAC コード
もも	アグロスリン水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	5回以内	3(A)
	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	散布	3回以内	
	ベニカ水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	散布	3回以内	
	テッパン液剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内	28
すもも	アグロスリン水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	2回以内	3(A)
	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	
	アクタラ顆粒水溶剤**	収穫7日前まで	2000倍	散布	2回以内	4A
	ダントツ水溶剤	収穫3日前まで	2000倍	散布	3回以内	
	テッパン液剤***	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内	
うめ	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	4A
	アクタラ顆粒水溶剤	収穫7日前まで	2000倍	散布	2回以内	
	ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	
	ベニカ水溶剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内	22B
	アクセルフロアブル	収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内	
	テッパン液剤***	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内	

** : 小粒核果類(うめを除く)に登録のある薬剤

*** : 小粒核果類に登録のある薬剤

詳細は、農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課 (TEL 028-665-1244) までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センター
ホームページ (<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>) でもご覧になれます。